保育所見学報告

評価室では評価者のスキルアップのための研修を継続的に実施しています。研修の一環として、4月に開園したばかりの保育所を2園見学しましたので、その様子を報告します。

西巣鴨さくらそう保育園（7月16日）

豊島区社会福祉事業団は、公立保育園の民営化にあたって、プロポーザルに応募して民営化事業者として区から指定を受けました。建設あたっては、保護者・行政・事業団の三者により、新園が子どもたちにとって最もふさわしい生活の場になることを目指し、ハード・ソフトの両面からの詳細にわたり数次にわたる協議を踏まえ、開園の運びとなったと伺いました。

明るい弓形の園舎全景

新設された園舎は、園庭を中心とした弓形の3階建ての園舎で、広い窓から陽の光が差し込む、明るく開放的な建物で、室内は木のぬくもりを感じさせます。園庭側に面したベランダは、運動会などの際には保護者の観覧席になるそうで、一目で園庭を見渡すことができます。

生後57日から5歳までの定員128名（最大定員150名）の保育園です。生後8か月未満の乳児の保育時間は8：30～17：00ですが、その後は勤務時間や通勤時間、家庭の状況などを考慮して、最大7：15～20：15まで延長保育に対応しています。

病後児保育を行っており、専用の出入り口を設けて、ほかの園児と接触せずに、直接看護師・保育士のいる専用の保育室で安静に過ごすことができるように配慮されています。

休日保育も行っていますが、現在のところニーズはあまり多くなく、現在はスポット延長保育として、区内の認可保育園に通う子どもを1日単位で受け入れています。障害児も受け入れており、大勢の園児たちと一緒に園生活を楽しめるようにしています。

給食は業者に食育プログラムも含めて委託しており、幼児クラスは3階のランチルームで食事をし、季節や行事にあわせて、子どもたちに食べる楽しみを伝えられるよう工夫しています。隣は、午睡スペースになり、子ども達が使用していないときは、子育て支援スペースとして、地域の子育て支援や育児相談にも応じることになっています。乳幼児を家庭で保育している保護者のリフレッシュなどを目的に一時保育も受け入れており、地域の子育て支援の拠点となれるよう、園長・副園長を中心に、一人ひとりの子どもたちが安心して快適に過ごすことができるよう見守っています。

見学時にはちょうどプール開きに向けて大きなプールが設置されているところで、これからの暑い夏、大勢の園児の声が響き渡ることになることと思われました。（松浦）

キッズタウン向原（6月16日）

園は島根県に本拠地を置く社会福祉法人ほうこうえんが運営しています。東京都住宅供給公社が再開発事業として建設したサービス付き高齢者住宅のうちの1棟を借り受け、3階以上をサービス付き高齢者住宅として、1・2階部分に、居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所、ホームクリニック等とあわせて、定員100名の保育所を開設しました。

広々とした吹き抜けの玄関を入ると、木の香りがあふれるゆったりしたフロアとなっています。乳幼児にはゆっくりと静養できるスペースを用意し、3歳児以上のクラスは仕切りの壁を設けずに子どもの生活スペース全体を見渡せる設計になっています。また、小規模多機能型居宅介護事業所とはドアでつながっていて、高齢者と身近に交流できる環境となっています。

玄関上の保育士手作りの動物園

入り口を別にした一角には、区内の認可保育園に通う園児が利用できる病後児保育室があり、保育士と看護師が常駐しています。また、地域の親子が随時利用できるスペースも用意されています。

保育の現場でも職員の確保が厳しいと言われていますが、園では退職後の経験ある人材を活用し、若い保育士と一緒に園児の支援にあたっています。退職後の人材を少し安い人件費で確保することで人材配置を豊かにすることができたと伺いました。ゆとりある空間と信頼できる職員で、「都内に理想とする保育園がひとつはあってもいい」という園長の笑顔が印象に残りました。（山本）

編集後記：観光立国のスイス。4,000メートルを超える山々をいくつも抱え、乗り物に乗り継いで富士山より高い展望台に行くことができる。自己責任が基本のこの国は、しっかりしたガードレールに囲まれた日本人には驚きの連続。アイガーを目前とするユングフラウヨッホの展望台にもロープが渡されただけ。足を滑らせれば命はない。自分の身を守ることの大切さを改めて考えさせられた。（M）